

特集

外国人市民の皆さん、国際交流センターに何を望みますか？

今年度で、川崎市国際交流協会設立30周年、川崎市国際交流センター開設25周年を迎えました。これを機に、より多くの外国人市民の皆さんに愛される施設にしたいと考えています。今回は、川崎市で生活する3名の外国人市民の皆さんに、生活の中で困ったことや、川崎市国際交流センターに求めるサービスなどについてお話を伺いました。

玉城フスティナさん

ポリビア出身
来日25年

片貝ワンウイサーさん

タイ出身
来日2年

ファム・ドック・フォンさん

ベトナム出身
来日14年

北沢仁美

川崎市国際交流センター
センター長



北沢▶皆さんと川崎市国際交流センター(以下、センター)の関わりを教えてください。

ワンウイサー▶私は、来日して2年です。日本語の勉強ができる場所を探していた時、ネットや中原区のパンフレットでセンターを知りました。初めは日本語講座に通い、今は週に1回、ボランティアが一对一で教えてくれる「生活にほんごサロン」へ通っています。日本語だけでなく日本文化も教えてくれるので、とても助かっています。

フスティナ▶私は、来日して25年ぐらいです。当初は、母国と行き来することが多かったですね。17年前から、子どものことを考えて永住しています。この頃から本気で日本を理解するための勉強を始めました。センターのことは幸市民館に行った際に知りました。現在は、毎年7月にセンターで開催される「インターナショナル・フェスティバル」に参加しています。その中で、民族舞踊や料理を通して、母国であるポリビアを知ってもらえて嬉しいです。お客さんから「来年も参加してね」と声をかけてもらい、元気ももらっています。

フォン▶私は、来日して14年です。現在は、センターで外国人に対する窓口相談(「多文化共生総合相談ワンストップセンター」)で、ベトナム語の相談員をしています。2019年7月末に開設されたので、まだ知らない方は、何かあれば11言語に対応した窓口相談をぜひ利用してほしいですね。

北沢▶日本の生活で特に困ったことはありますか？

ワンウイサー▶病気になった時に困りましたね。勉強も兼ねて、あえて一人で病院へ行きましたが、コミュニケーションがとても難しい。筆談なども交



片貝ワンウイサー

え、なんとか乗り切りました。また、仕事を探すのも大変でした。今は勉強して日本語能力試験のN3レベル(*)になりましたが、日本へ来た当初、言葉の壁は厚かったですね。今は、翻訳の仕事をしていて、言葉の問題は大丈夫です。

フスティナ▶私も、子どもが病気になり、病院へ行った時に言葉の壁があって、とても困りました。来日した当初は外国人が少なく、日本人の夫と一緒に乗り切りました。困ったこともあります。日本は治安がよいので好きです。センターは日本語のみならず、日本文化も教えてくれるのでとてもよいですね。窓口相談(「多文化共生総合相談ワンストップセンター」)も、多言語に対応していて嬉しい。住みよい街づくりにセンターは欠かせないと思います。是非、困っている外国人にセンターの存在を知ってほしいですね。

フォン▶私も来日してから病気になった時に困りました。病院へのかかり方、どこに病院があるのかが分からない。来日している同郷の先輩に教わりましたが、医者とのコミュニケーションは大変でした。また、仕事を探すのも大変。働き方、保険のこと、同僚との付き合い方など困ることが多かったです。同郷の先輩ばかりに頼ることはできず、今までに何度も転職しました。私は2019年の6月に、これから来日する同郷の人が仕事に就くのに困らないよう支援する会社を起業しました。私が味わった苦労を少しでも軽減できるよう、これから日本で仕事を探す同郷の人を支援していきたいと思っています。

北沢▶今後、より多くの外国人市民の方にセンターを利用してもらうには

どうしたらよいでしょうか？

ワンウイサー▶センターでは、いろいろなイベントや講座がありますが、センターに来ないと分かりません。活動内容をFacebookなどで発信するとよいと思います。ホームページも多くの情報が多言語化されると嬉しいですね。日本語のカナをふってあるよりも一行でも英語で書いてあるほうが、「外国人に関係ある情報だ」ということが一目で分かってよいと思います。また、センターで生活や教育の相談ができることを知りませんでした。身近なところで相談できるのはメリットだと思います。

フスティナ▶私は日本に来て長いですが、それでも日本語には苦勞しています。日本に来たばかりの外国人向けに「やさしい日本語」を使って身の回りのことや病院など制度の説明をしてあげるとよいと思います。情報の発信という点では皆が行くところ、大使館や駅、区役所、スポーツセンター、病院などにチラシやSIGNALを置いてもらうのはどうでしょうか？

フォン▶日本語学校に置いてもらうのもいいですね。

フスティナ▶高齢の知り合いがいるのですが、日本語ができず孤立しています。電車にも乗れません。病院に付き添っていくことがありますが、医療のことなので、通訳を間違えると怖いと思うことがあります。病院や外出に付き添ってくれるサービスがあると嬉しいです。

フォン▶経済成長期に日本に来た高度外国人材の高齢化も最近問題になっていますね。日本語ができず、子ども

も独立しているため孤立化しているそうです。外国人の高齢化問題も今後の課題になってくるのではないのでしょうか。



ファム・ドック・フォン

北沢▶最後に、交流センターの場所についてはいかがでしょうか？駅からはちょっと遠いと感じますか？

フスティナ▶遠いですが、運動にもなってちょうどよい距離です。

フォン▶確かに少し遠いですが、だからこそ広い場所が確保できて、いろいろなイベントができるんだと思います。たとえば、外国人が自分の国の風習に合わせてイベントを企画して、母国の言葉で情報を発信するといったイベントもあつたらよいと思います。逆に日本人をゲストとして招くようなイベントもよいですね。

北沢▶それはいいですね。外国人の方が企画して、センターを使ってもらう。場所は駅からちょっと遠いですが、その分静かであり環境にあると思います。今後はさらにセンターをPRし、また、よりよいサービスを提供できるよう力を入れていきたいと思っています。
本日は皆さんありがとうございました！

(取材・文：編集ボランティア
正一 努、水野 裕子)

(※)日本語能力試験では認定レベルをN1～N5の5段階で定めている。数字が小さくなるにつれて難易度が高くなる。

多文化共生総合相談ワンストップセンターでは、11言語の相談員が対応します。タブレット端末を使用して対面通話することも可能です。また、医療通訳の場合は、医療通訳の派遣を行っている「MICかながわ」をご紹介します。



玉城フスティナ